

大会レコードで初V

サッカーから転向して16年

《第13回九州女子シニア選手権》

6バーディー、2ボギー、1ダボの70

利光 ちはる（大分中央、51歳）



【写真は初優勝の利光㊦と利光のゴルフ仲間です。岡村紅㊦は、今大会に出場した】

2日後には見違える自分がいた。8月26日、同じ久山CCで行われた九州女子ミッドアマで利光は17オーバー89のスコアで48位タイ。「惨敗でした」と首をうなだれて住まいのある大分市内へ戻った。その足で師匠の榎隆則の元へ。榎は日本シニア、九州シニア連覇など九州のゴルフ界を牽引するプレーヤーの1人。そこで榎から「アド

レスでボールに近すぎ」とのアドバイスを受ける。

修正した利光のゴルフが変わる。インスタート。11番からボギー、ダブルボギー、ボギーと最初の4ホールで4オーバーながら15番で80cm、17番で50cmのバーディーパットを沈めて前半を38でターン。「ショットが良くて、安心してプレーができた」と後半のアウトでも勢いは止まらない。1番2m、5番1mとバーディーパットを決めて、7番では「ミラクル」と自画自賛したショットを放つ。5Wでの第1打は隣のホールに大きく曲げたものの、ピンが見えない残り140ヤードを8Iで30cmにつけて、またスコアを1つ縮める。最終9番もバーディー締めでハーフ32である。「アンダーは初めて。70はベストスコア。生涯スコアになるかも。本当に嬉しい」とこれまでの自己ベスト75からの大躍進に喜びを爆発させた。2アンダー70はこれまで若松和代(大隅)が持っていた71(2022年、志摩シーサイド)を1打上回った。

大分市内で生まれ、大分上野丘高→大分大学教育学部を卒業後、秋田や熊本などの女子サッカーのクラブチームで活躍。ポジションはゴールキーパーからフォワードまでこなすオールラウンダーだった。2008年の大分国体ではサッカー競技の監督を務め、現在でもサッカースクールのコーチの肩書を持つ。ゴルフとは2009年に出合う。父親の影響や、時間に余裕ができたこともあってクラブを握る。やり始めたら「とことん派」。アドバイスを守り、最初の1年間はアイアンだけの練習。そして初めてラウンドした大分竹中CCで「98」をマークした。「ゴルフ場はサッカーに比べると『静かな』という印象でした。気持ち良かったし、『こりゃ、やめられんぞ』と思いました。ゴルフの魅力？ いろんな人と出会えて話ができる。いつもうまくいかないけど、そのたびに集中して」とサッカーと同じようにゴルフにはまる。

日本女子シニアは昨年に続き2度目の出場。「シードも取りたいし、優勝もしたい」と意気込む。

《九州女子グランドシニア》

九州女子シニア選手権と並行して開催された九州女子グランドシニア選手権で1位通過したのは佐藤桂子(太宰府、61歳)。2オーバー74のスコアで九州女子シニアでも2位に入る健闘ぶりだった。「いいプレーでした。こんなスコアが出るとは。ショートは全てパー。良かった」と笑顔を見せた。8月23、24日の佐賀アマチュア選手権(降雨のため18ホールに短縮)では5連覇を達成したばかり。8月26日の九州女子ミッドアマチュア選手権では77で4位タイ。この3選手権競技とも全国大会に出場することになる。

《久山カントリー倶楽部》

